

FREE

ご自由にお持ちください。

No.834
2023 March

3

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



令和4年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール
入賞作品が決定しました!

最 優 秀

小学校低学年の部



大垣市立興文小学校3年
たなかりこ
田中 莉子さん

小学校高学年の部



岐阜市立華陽小学校4年
あらい こう
荒井 航さん

中学校の部



岐阜市立精華中学校2年
おがわ こうた
小川 煌太さん

高等学校の部



岐阜県立大垣北高等学校1年
はせがわ あい
長谷川 愛さん

●詳細は3ページをご覧ください。

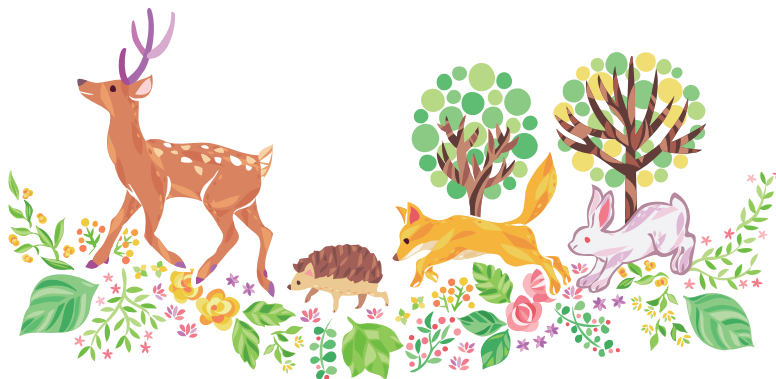


編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
3月1日(水)~ 5月31日(水)	緑の募金(春期)	「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。 4月2日(日)に岐阜市「道三まつり」で、岐阜市緑の募金委員会とともに、街頭募金を行います。	JR岐阜駅北口2階通路 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577
3月11日(土)	恵みの森づくり コンソーシアム presents 森あそび・森まなび ~森から感じる春の訪れ~	恵みの森づくりコンソーシアム会員による、ワークショップや展示・販売を行います。大人も子供も大歓迎です。 ●時間：10:00~16:00(予定) ●内容：「森の恵み」に関わる様々な体験プログラム(バードコールづくり、丸太切り体験など)、展示、木製品や枳などの販売 ●参加料：無料(体験プログラム等一部有料)、事前登録不要	マーサ21 北館1F マーサスクエア 恵みの森づくりコンソーシアム事務局 (森林活用推進課) TEL 058-272-8255
3月17日(金)~ 4月9日(日)	岐阜県緑化運動ポスター コンクール 入賞作品 展示	令和4年度岐阜県緑化運動ポスターコンクール入賞作品52点について、ぎふ木遊館にて展示します。 ●時間：10:00~17:00	ぎふ木遊館 森林活用推進課 058-272-8255



目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2

令和4年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール
入賞作品が決定しました! 3

岐阜県緑の博士(グリーンドクター)を認定しました 3

山の歳時記(21) 木炭 II 4

山のおしよまむし(380) — よいアイデア、53年前の年賀状 — 5

ぎふ木遊館通信 6

morinos プログラム紹介!! 7

シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国ぎふづくり(11) 8

企業との協働による森林づくり 9

森林と人を活かす知恵(12) 木曾三川の治山治水を想う 10

木の香るぎふの施設(120) 前宮そらまちこども園 11

地域の人 12

〜身近にある資源を生かす〜岐阜のグランドキャニオン 12

研究コーナー 12

菌床シイタケ発生への夏場の温度上昇の影響を理解して
栽培管理に役立てる 13

普及コーナー 労働災害ゼロを目指して 14

スマート林業通信(33) 15

国有林の現場から(77) 15

七宗町上麻生地区森林共同施業団地 16

ニホンジカ食害防除対策現地検討会を開催しました 16

岐阜県みどりの少年団活動発表大会を開催しました 17

林業者向けお知らせ 17

市況 18



表紙●詳細は3ページをご覧ください。

令和4年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール 入賞作品が決定しました!

県では、緑化の意義などを普及啓発するため、昭和58年度から県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の児童、生徒を対象に「岐阜県緑化運動ポスターコンクール（後援：岐阜県教育委員会、（公社）岐阜県緑化推進委員会）」を実施しています。

令和4年度は、県内101校から470点の応募があり、審査の結果、入賞作品52点が決定しました。

なお、「岐阜県緑化運動ポスターコンクール」入賞作品は、令和5年3月17日（金）午前10時から令和5年4月9日（日）午後5時まで ぎふ木遊館にて展示します。

優 秀

小学校低学年の部



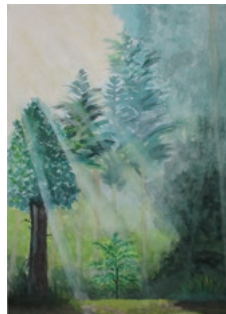
大垣市立興文小学校1年
たなか れん
田中 蓮さん

小学校高学年の部



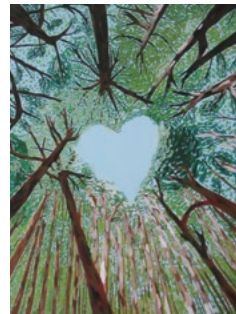
大垣市立東小学校6年
ふじ たまき
藤 環さん

中学校の部



可児市立広陵中学校3年
まえかわ なこ
前川 菜々子さん

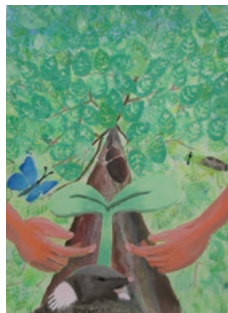
高等学校の部



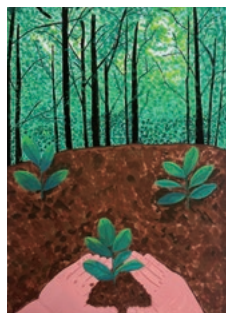
岐阜県立岐阜城北高等学校2年
いしざき こう
石崎 煌さん



可児市立南帷子小学校2年
ひらた きつき
平田 咲月さん



大垣市立東小学校6年
なかやま あやね
中山 彩音さん



可児市立西可児中学校3年
かわぐち りお
川口 莉央さん



岐阜県立大垣北高等学校1年
やの りさ
矢野 里沙さん

※最優秀作品は表紙に掲載しています

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課緑化推進係まで

岐阜県緑の博士(グリーンドクター)を認定しました



県では、巨樹・古木などの貴重な樹木の保護、保存を図るため、樹木の生理、生態等の知識を有し、樹木の保護、治療等を体系的、総合的に判断できる専門技術者を「岐阜県緑の博士(グリーンドクター)」として、平成7年度から認定しています。

岐阜県緑の博士は、経験と知識レベルにより3A級、2A級、A級の3段階に区分(3A級が最も高度)されています。

このたび、2名の方がA級に認定され、令和5年2月8日に認定証授与式を開催しました。認定されました2名の方には、地域に根ざした「樹木の専門家」としてご活躍いただくことを期待しています。

被認定者

A級(受付番号順)

原田 利行さん 奥村 倫弘さん

岐阜県緑の博士(グリーンドクター)

岐阜県が認定する公的な資格で、これまでに175名(3A級9名、2A級28名、A級138名)を認定された方は地域の樹木保護や緑化推進に貢献されています。



認定証授与式

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課緑化推進係まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「川尻さん、家の床下に入れる調湿炭ってご存じですか?」、新築されるお宅の床下に黒炭を入れるか、白炭にするかで悩まれているとのこと。

あいにく私には、どちらの炭が良いのか分からないので、まずは黒炭と白炭それぞれの特性についてお話ししました。
黒炭は軟らかく、着火し易く、温度も急速に上昇し、発熱量も白

炭に勝るため、キャンプのバーベキューには使いやすい反面、燃焼温度が一度ピークに達した後はすぐに低下する傾向があります。

これに対して、白炭は硬く、着火しづらく、燃焼温度がやや低い反面、着火後は安定した温度を長時間保ち、途中で新しい炭を補充しても温度が下がりにくく、焼きムラもできづらい傾向があります。

焼き物に炭火を用いる最大の利点は遠赤外線効果です。この遠赤外線には水分がほとんど含まれないため、素材のおいしさを閉じ込めたまま香ばしく焼き上げることができま。これに対しガスコンロの炎には水分が含まれているため、素材のおいしさを水分が包み込んで蒸発させてしまいます。

黒炭の製炭技術を最も発展させた1つに、茶道の「炭点前(炭手前)」があります。おもてなしを大切にする茶道では、おいしいお茶

を入れるための湯加減調整上、火加減調節しやすく、かつ美しい上質な木炭が必要となります。茶道では樹皮が薄い柳肌で、断面が円形で亀裂が菊花状に美しく入ったクヌギ炭が最良とされたため、製炭技術に一層磨きがかかったとされます。

さて、木炭の利用事例として珍しいものに、岩手県平泉の中尊寺に眠る藤原四代のミイラがあります。藤原氏の墓棺の内外は木炭が詰められ、高温多湿に耐えるよう防腐・防湿目的で木炭が使われていました。同じミイラでも古代エジプトのミイラでは、木炭を使用した事例はなく、炭焼きの副産物である木タールが防腐剤として利用されていたそうです。

炭は焼成温度(製炭する際の温度)が高温になるに従って、酸性からアルカリ性に移行し、かつ電気抵抗がなくなり、通電性の良い組成に変化する特性があります。このため黒炭は酸性で絶縁性が高く、白炭はアルカリ性で通電性に優れる傾向があります。また黒炭はアンモニアなどアルカリ性物質等を吸着し、白炭は酸性物質を吸着させる作用があります。



▲上質な黒炭

床下の木炭を考えると、湿気を木炭が吸着することでシロアリの発生を防止できることは明らかです。さてあなたなら、黒炭と白炭、どちらを床下に入れますか。



山のおじゃまむし



—よいアイデア、53年前の年賀状—【第380回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

私は版画の年賀状で、新年のあいさつをしている。ところが後期高齢者の仲間入りをしたころから、目が悪くなり、今年は版画が彫れなくなった。ショックだった。多くの方から「貴方の版画を楽しみにしている」との声が届いているからである。がっかりしている時、よいことを思いついた。前書きに次のことを記して、前の版画を利用することにしたのである。

あけましておめでとうございます。

私の年賀状は版画。これを何年も続けている。ところがこれが出来なくなった。年とともに目が悪くなり、彫れなくなったのだ。急にさびしくなり、むなしくなった。それで昔の版画を利用することにした。今回は私のお気に入りの昭和44年のもの。もう53年前のものだ。当時は虫採りに夢中。飛騨の山々をかけずり回った。その光景が目に浮かぶ。また、アポロ11号が人類初の月面着陸に成功したのが大きなニュースになった。月日の経つのは早いとつくづく思う。今年もよろしく願います。

次に住所録の整理をした。驚いた。亡くなっている人が、いつもより多かったのである。これは昨年義母が亡くなり、年賀状を出していなかったからであろう。私が出した人は40～50歳台が数名で、あとはすべて60以上だ。改めて高齢者であることを痛感する。同時にますます天国へ旅立つ人が多くなるだろうとさびしくなった。この人たちは元気だろうか。どんな生活をしているのだろうか。近況が知りたくなった。

× × × ×

令和5年元旦。年賀状が届いた。128名からだった。賀状を読んでいくと、その人のことを思い出して懐かしくなった。特に後期高齢者の人は、ほとんどが病院通いの日々で、物忘れがひどくなり困っているという。私と同じではないかと安心する私。笑えてきた。一方、毎年近況を知らせていた人から来てないものもあった。しかし、賀状は戻ってきていない。届いているはずだ。どうしているのだろうかと心配になる。また、10数名の方からは、今回で賀状のやりとりは止めさせていただきま



▲53年前の年賀状

すとあった。時代がかわったのだなとつくづく思う。元旦以降に届いた賀状もあった。その中の3名からは昔の賀状を利用するとは、良いアイデアだなと感心していた。また某氏は「あの版画は初めて見たよ。最近の版画よりよくできているよ」と褒めていた。考えれば53年前から賀状をやり取りしている人は同級生しかいない。と言うことはほとんどの人が昔の版画は見てないはずだ。これからもこのスタイルで行くことに決めた。

× × × ×

賀状を読んでいると、「[山のおじゃまむし]を楽しみにしています。いつまでも続けてください」というのが何通もあった。これを見て、「やはり続けなければ」と思った。と言うのは、年とともに気力が萎え「もう終わりにしよう」という気が起きてくるからである。しかし、こうした賀状を見ると元気が出てくる。もう少し続けようと思い決めた。また、かつての上司M氏の娘さんから「----父は昨年10月28日、92歳で永眠しました。毎年野平さんからの年賀状を楽しみにしておりましたので、すぐに父に供えました。-----」。M氏の娘さんは小さいころからよく知っている。その娘さんがわざわざ返事をくれた。この優しい心に胸が熱くなった。このほか版画の年賀状を保存しているという人が10数人いた。私の宝物だという人もいた。このことを知り、版画が彫れなくなったことが悔しいとまたまた思う。それと気になったのはM氏。高校の1年先輩で、部活は剣道部。これが縁で賀状のやり取りを始めた。卒業後は会うこともなく、賀状による挨拶だけだった。M氏の賀状は版画。これが素晴らしい。私も競って彫ったものだ。それが数年前から来なくなり、今年も届いていない。恐らくもう会うことはないだろう。考えればM氏とは50年以上にわたって、賀状だけのお付き合いだったことになる。賀状だけで50年！。人は信じないかも知れないが、これは事実なのだ。学生服を着たM氏の顔が目には浮かんできた。

× × × ×

賀状の多くは昆虫関係者。言葉を変えれば虫気ちがい(虫きち)だ。若いころは珍しい虫をねらって日本各地へでかけた猛者が多い。筆者も同じで北海道から九州にかけ、捕虫網を振り回した。珍品も何種か採った。これを賀状で自慢しあう。これが刺激になり、元気が出てきた。ところが自慢話が少なくなった。昆虫類の研究もDNAや遺伝子に目が向けられているからである。高齢者はついていけない。それにかつての虫きちも、今では野山でなく病院通いだ。交わす言葉は高血圧、糖尿病、神経痛などの病気の話が多い。急に暗い気持ちになり、これが多くの虫きちがたどる道か。こんなことを思ってしまった。



ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館の木工室では、土日・祝日を中心に、木のものづくりなどの木育プログラムを体験することができます。様々な木育メニューを通して、子どもたちは五感を使って木への愛着を持ち、大人には森と人との関わり気付いていただきます。今回は1月に開催した2つの木育プログラムを紹介します。どちらも「ホンモノの技術」を子どもたちが楽しめる内容に落とし込みつつ、『ぎふ木育30年ビジョン』のステップ2（関心をもつ、気付く）につながる構成となっていました。

世界にひとつ!自分だけのこまづくり体験

森林文化アカデミークリエイター科2年生の白瀧周さんに課題研究の一環として実施していただきました。木工旋盤を持ち込み、普段はなかなか見ることのない旋盤加工を見学してもらい、シュルシュルとみるみるうちに削れていく様子に子どもも大人も釘付けになっていました。子どもたちにはもじゃもじゃの削り屑がおもしろいようでその感触を楽しんでいました。今回の素材となった樹はエゴノキで、花や葉の様子に、和傘のロクロに使われていることなどを紹介し、絵本も使いながら、「樹から木へのつながり」を子どもたちにもわかる言葉で伝えようと工夫されていました。

後半は子どもたちのお楽しみの部分。旋盤で回る木のコマに油性ペンで模様を付けます。どんな色にするか、どんな模様にするかは子どもたちの自由。大人の口出しなしです。最初は恐る恐るペンを当てていた子どもたちも、コツをつかんだらどんどん大胆に。世界にひとつの、個性豊かなコマが出来上がりました。最後に、それぞれ作ったコマを一緒のコマ台で回して遊ぶことで参加者同士のコミュニケーションも生まれました。

アンケートを見ると、保護者の方から「小1の娘が学校の授業でコマの色塗りをしたがそのコマが丸太から削り出されていることを知れておもしろかったと思います」「実際のエゴノキを見たい」と好反応がありました。家庭で普段から子どもの育ちを見守る保護者の方々にこのように感じていただけたことは、今回のプログラムが「イベント」に終わるのではなく、ぎふ木育として意義のあるものであったと思います。



ヒノキのコスター（宮笠の笠ひでで作ろう）

ぎふ木育協会に所属するぎふ木育指導員の白田陽子さんに実施していただきました。まずは、高山市無形文化財である宮笠の「ヒデ」の作り方について、イラストや動画を使ってお話します。今回使う素材がどんなふうに出てくるのかは、このプログラムの重要な部分です。直径30～40cmの大きなヒノキの丸太を煮て、グルグル回る機械でカツラ剥きにして薄いシート状の木が出来上がる様子はインパクトがあります。さらに、宮笠保存会指導者の間坂義一さんによる、ヒデを編む早業も映像で見てもらい、伝統技術の一端に触れていただきました。

さて、こうした技術をより身近に感じてもらうために、コスターを編んでいきます。白田さんは今回、子どもたちにも気後れすることなく素材に触れ、自分のお気に入りを作る楽しさを感じてもらうために、色を付けたヒデも用意されました。黄色は黄蘗（キハダ）の染液で染めたそうです。こうした細かい工夫も大事ですね。

時間が経つと、子どもたちはヒデをまあるく丸めたり、好きなように組み合わせて飾りを作り始めました（下の右写真のよう）。こうした場面でも、無理にコスターづくりに引き戻さず、その様子を見守り声を掛けながら自由な作品づくりに寄り添います。一方、保護者の方はコスターづくりに集中。家庭に帰ってからも使っていたり満足いく作品が出来上がりました。使うたびに宮笠のこと、ヒデのこと、ヒノキのこと、森のことが食卓の話題に上ると良いですね。





やがてみんなの森になる

morinos

morinosプログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター (morinos) で実施しているプログラムについてご紹介します!

<morinosわくわくDay「葉っぱまつり～大量の落ち葉を遊びつくそう～!」を開催しました>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのはmorinosでひと月に一度開催されている「わくわくDAY」。毎月いつものひろばでの自由な遊びにテーマを加えてみんながわくわくすることをしちゃう一日です。

これまで「どろんこまつり」「木の実や泥だんごでコロコロを極めちゃおう!」など様々なテーマで開催しており、毎回多くの方が参加してくれています。「葉っぱまつり」のこの日は127人の方が来てくださいました。

「葉っぱまつり」としては、最初は何も準備していません。子どもたちも何が始まるのかぼかんとしています。そこがミソ。ひろばスタッフのサニーさんが資材を組み立てると「なにしてるのー?」と子どもたち。「みんなの葉っぱプールをつくりたいんだけど、葉っぱを集めるのを手伝ってくれる?」「いいよー!」みんなの遊び場を自分たちの力でつくっていきます。



【最初は空っぽの葉っぱプール
なにができるのかワクワク】



【自分たちの力で葉っぱ集め これも遊び】



【たくさん葉っぱをバサッ!きれいだよね。】

葉っぱをたくさん集めると、たくさんの葉っぱを撒いてみたり、プールに飛び込んだり、すべり台をつくったり、葉っぱを温泉に見立ててくつろいでみたり。普段できない自然の遊びをどんどん生み出していきました。

最後はみんなでお片付け。片付け中に落ち葉合戦が始まり最終的にみんな葉っぱまみれになりました。

ひとつのテーマを決めて自分たちの力で遊び場をつくり遊びこむことで普段はできない自然とのかかわりを体験することができました。



【すべり台もつくっちゃう】



【ぼかほかのお日様であったかい落ち葉で温泉気分】



【片付け中にも落ち葉合戦に夢中です】

こうしたプログラムはmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00～16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

「ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー」を育成しています

「ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー」とは、地球温暖化防止のために普及啓発活動に取り組む学生です。地球温暖化に関心のある県内学生を募り、県が実施する温暖化対策に関する研修の修了者を「ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー」として県が認定しています。

認定者のうち希望者は、次年度から岐阜県地球温暖化防止活動推進員として委嘱し、県内で、森林のはたらきやカーボン・オフセット制度等を含む地球温暖化対策の普及啓発活動に従事しています。

令和4年度に実施した研修についてご紹介します。

ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー育成研修

【目的】

岐阜県における地球温暖化対策の推進を図るため、地球温暖化防止のために普及啓発活動に取り組む学生を育成する。

【内容】

日 程		内 容
第1回	基礎講座 令和4年10月	・地球温暖化の原因や影響などの基礎知識及び最新情報を学ぶ
第2回	基礎講座 令和4年10月	・気候変動の適応、カーボン・オフセット等について学ぶ
第3回	実地研修 令和4年10月	・県内の環境イベントへ参加し、効果的な啓発方法を学ぶ
第4回	まとめ講座 令和4年11月	・グループワークでの意見交換などにより、見識を深める



○受講者の声

- ・地球温暖化や適応策、また森林の働きなどについて、自分の知らなかったことを知ることができた。
- ・他人事ではなくて自分や次世代に関係があることだと思い、地球温暖化対策をすることが大切だと改めて実感した。
- ・研修を終えて関心がさらに高まり、このような活動を続けてみたい。また、推進員の活動は自分の成長にもつながるものであり挑戦してみたい。

【過去の実績】

・学生アンバサダー認定者数

令和元年度18名、令和2年度19名、令和4年度14名（令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため研修を中止）

【研修の様子】



「基礎講座」
（岐阜県地球温暖化防止活動推進センター）



「地球温暖化対策普及啓発ブース出展」
（カラフルタウン岐阜）



「地球温暖化対策普及啓発ブース出展」
（イオンモール各務原）



企業との協働による森林づくり



新たに3件森林づくり協定を締結し活動を開始しました！

県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を推進しています。令和4年度は、27～29例目として、新規で3件の森林づくり協定を締結しました。

27

日本ガイシ みんなの森みずなみ

日本ガイシ株式会社（名古屋市）、東濃西部養蜂組合、瑞浪市及び岐阜県東濃農林事務所の4者の間で、森林づくり協定を締結しました。

日本ガイシ社有林での森林づくり活動を通じて、豊かな自然環境を創出し、東濃地域における養蜂の振興や地域住民との交流機会を充実させることで、地域発展に貢献します。また、事業計画の立案や実行を担う「東濃西部養蜂・林業連携推進円卓会議」を設置し、この取組みを推進します。

- 場 所：瑞浪市日吉町地内/社有林（面積17ha）
- 森の名称：「日本ガイシ みんなの森みずなみ」
- 協定期間：令和4年10月4日～令和9年3月31日（5年）
- 協 定 日：令和4年10月4日（火）
- 活動内容：養蜂の振興、危険木伐採、遊歩道整備、自然観察や各種研修会等



28

Present Tree in 下呂

認定特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所（東京都）、株式会社小林三之助商店（岐阜市）、下呂市及び岐阜県の4者の間で、森林づくり協定を締結しました。

認定特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所では、「贈り物に樹を植えよう!」を合言葉に、全国に広がる放置された森や災害に遭った森などに記念樹を植えることにより、森林再生と地域振興につなげる取組みを全国各地で行っています。

「Present Tree」とは、都市部の人達が寄付をすることで苗木の「里親」となり、その後10年間（場所によっては20年間）植樹を行った地域と交流を図りながら森を育てていくプロジェクトです。

- 場 所：下呂市金山町戸部地内/私有林（面積15ha）
- 森の名称：「Present Tree in 下呂」
- 協定期間：令和4年10月4日～令和24年10月3日（20年）
- 協 定 日：令和4年10月4日（火）
- 活動内容：植栽、下草刈り、獣害防除工の設置等



29

デンソーワイズテックの森

株式会社デンソーワイズテック（可児市）、美濃加茂市及び岐阜県の3者の間で、森林づくり協定を締結しました。

株式会社デンソーワイズテックは、「デンソーエコビジョン2025」に従い、「One DENSO action Green & Clean」の取組みとして、公園整備活動や清掃活動、特定外来生物（植物）の駆除などに積極的に取り組まれています。今回は活動の更なる充実を図るために森林整備などを通じた里山づくりを推進します。

- 場 所：美濃加茂市山之上町地内/私有林（面積2.6ha）
- 森の名称：「デンソーワイズテックの森」
- 協定期間：令和4年12月16日～令和9年3月31日（5年）
- 協 定 日：令和4年12月16日（金）
- 活動内容：里山整備、歩道整備、地域交流事業



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課 緑化推進係まで

木曾三川の治山治水を想う

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 池戸 秀隆

● 川を治めるには、先ず山から

明治二十九年の大洪水で八千戸の家屋と四万人の人命を救った人物として大垣市出身の金森吉次郎（かなもりきちじろう）がいます。

彼は、暴れ天竜と呼ばれた静岡県の天竜川流域を植林による治水対策で成功した金原明善（きんぱらめいぜん）と明治二十四年に出会い、感銘を受け、揖斐川上流の根尾谷の植林事業に尽力し成果を上げています。

このように荒れた谷には堰堤を設置し安定させ、はげた山には植林し土砂流出を防止する工事は時代を経ても治山治水の基本と言えます。

● 鹿児島県とは姉妹県

こうした先人の功労で人命と財産が守られた歴史や政策を学ぶため、毎年の校外授業で砂防遊学館、海津市歴史市民俗資料館、国営木曾三川公園を訪れています。

また、公園の近くには宝暦治水の平田靱負を祭神とする治水神社があり、姉妹県となっている鹿児島県を想い参拝すると感慨深いものがあります。

● 明治時代の木曾川下流改修

明治六年、内務省はオランダからヨハネス・デ・レーケを技術顧問として招き、明治二十年から改修工事をはじめ、二十四年間の歳月をかけて三川改修を行っています。

主な工事では、山からの土砂流入を抑止する石積堰堤の設置、川の曲がりを少なくするための開削、さらに、海に突き出した堤防である導流堤（どうりゅうてい）を築き、掃流力を高め土砂を海へと押し流し、河川の閉塞を防止するなど合理的な工事で水害による被害を著しく減らす成果を上げています。

● 江戸時代の宝暦治水

関ヶ原の合戦で勝利した徳川家康は尾張国を洪水から守るため「御囲堤（おかこいつみ）を築堤しましたが、対岸となる美濃国側は三尺（約1m）低い堤防としなければならなかったため、洪水による被害は避けられませんでした。

幕府は、宝暦三年に「御手伝い普請」と呼ばれる方法で、遠国の薩摩藩に工事一切を負担するという河川改修を命じています。

総奉行を家老の平田靱負（ひらたゆきえ）とし、九四七名が現地に派遣されました。

途中、工事費用を工面するため、大阪商人に借金までして支度し、大樽川洗堰（あらいぜき）の築造、木曾川と揖斐川を分流する「喰い違い堰」の築堤、松による堰の補強工事を一年二カ月の期間で四十万両（約二百億円）という巨費を投じ、八十四名の犠牲を払って竣工していただきました。しかし、大洪水では十分な効果が得られなかったようです。

● 木曾三川と養老山地

濃尾平野を流れる木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）は、平野の南西部へと向かい伊勢湾へ流れ込んでいます。

これは、プレート運動の圧縮力により濃尾平野の東端にあたる三河高原（猿投山地）を押し上げ、西端の養老山地の下に位置する養老伊勢湾断層で沈降するため、西に向かって下り坂になるため、今でも年間平均0.5mmほどの速度で沈降していると言われています。

このため古くから、この地域は洪水の被害に襲われ、輪中や水屋の建設をはじめ様々な治山治水対策工事が行われてきました。



揖斐川の向こうが養老山地



羽根谷の巨石堰堤（海津市）



日向松に囲まれた治水神社

前宮そらまちこども園

各務原市前渡東町9丁目67番地



施設全景

施設概要

事業年度	令和3年度
事業主体	社会福祉法人 小松河福祉会
構造 延床面積	木造平屋建て 1,273㎡
施設用途	保育所型認定こども園
木材使用量 使用樹種	234.65㎡(うち県産材使用量176.12㎡) スギ、ヒノキ他
全体事業費	377,300千円
助成額	20,621千円
設計者	株式会社ジャクエツ 一級建築士事務所
施工業者	株式会社高垣組
工期	令和3年9月から令和4年3月



施設の経緯

旧園舎老朽化のため新築移転し、令和4年4月より開園しました。園舎は木造平屋建てで、「のびのび わくわく すこやかに」という園の理念を具現化した施設にすることができました。



ここに注目!!

構造は岐阜県産の柱や梁をあらわしにしており、造作についても、正面玄関の軒天、各部屋のサッシ額縁や鴨居・開口部の枠、巾木を岐阜県産材を用いて仕上げました。

開口部を多く取り、周囲の自然と木のあふれる空間が調和し、開放的な園舎となりました。

利用者の様子

子ども達は毎日、ぎふの木を肌で感じながら元気いっぱいに過ごしています。

■問い合わせ先
社会福祉法人 小松河福祉会
TEL 0586-89-2779 (川島東こども園)



市原さん

～身近にある資源を生かす～ ＜岐阜のグランドキャニオン＞

川辺町役場企画課（元産業環境課）

市原 和也さん



遠見山

遠見山は、岩肌がむき出しになった岩山で、30分くらいで登れる山です。戦国時代には下麻生城があり、城跡の石垣や城池などが見られるほか、見晴らし岩からの眺めは絶景です。これまでは、おもに地域住民の方々が行事の際に登る山でした。

平成30年から令和2年にかけて清流の国ぎふ森林・環境基金の助成を受けて地域ボランティアと一緒に登山道整備や南天の滝周辺の整備を行うと共に駐車場の確保し、まずは登山者が入りやすい山をつくりました。

川辺町下麻生地区は、昭和初期まで、飛騨川に流した木材を筏組みし、下流の町へ流す木材集積地でした。その後、物流が陸路となり、木材集積地の機能はなくなり、今は川辺ダム湖を活用したポートの町・川の町として知られています。林務担当となった市原さんは、里山を活用して地域を盛り上げたいという思いから、遠見山の整備と集客に取り組みされました。

遠見山とはどんな山？

その後、令和3年秋に「YAMAP M AGAZINE」に紹介され、3週間後には登山客が約3倍に、その効果にはビックリでした。それから新聞社やテレビ局に電話やメールをして、取材を申し込むと、テレビ番組やニュース、YouTubeバーなどが取り上げてくださって、一気に知名度があがりました。

その後、令和3年秋に「YAMAP M AGAZINE」に紹介され、3週間後には登山客が約3倍に、その効果にはビックリでした。

スマホを見ながら山に登っている人から、「YAMAP」という登山アプリがあることを教えてもらいました。そのアプリを見ると多くの登山者が、登山記録を登録・発信していました。ここに向けて発信すれば、「山好きな人」に届くのではないかと思い、急いでYAMAPさんに取材を申し込みました。

グランドキャニオン？

最後に
遠見山は、冬でも雪もほとんどなく、低山のため歩きやすいです。登山道付近には、昔ながらの酒蔵や古民家カフェなど登山の後も楽しめるお店があります。ぜひ、川辺町にお越しください。
連絡先 川辺町役場産業環境課
TEL 0574-5317212
ホームページ <https://www.kawabe-gifu.jp/>

最後に
遠見山は、冬でも雪もほとんどなく、低山のため歩きやすいです。



岐阜のグランドキャニオン

YAMAP利用者の支援をポイントで頂き里山活動のボランティア団体を支援する「川辺町里山支援プロジェクト」を立ち上げました。支援金は川辺町の里山7座の登山整備に活用していきます。

これからの取組

昨年8月1日、町と㈱ヤマップは、「安全登山に向けた相互連携・協力に関する協定」を締結し、「安全登山の促進」、「観光プロモーション」、「里山整備団体の支援」を連携して取り組むこととしました。
YAMAP利用者の支援をポイントで頂き里山活動のボランティア団体を支援する「川辺町里山支援プロジェクト」を立ち上げました。支援金は川辺町の里山7座の登山整備に活用していきます。

菌床シイタケ発生への夏場の温度上昇の影響を理解して栽培管理に役立てる

岐阜県森林研究所 ● 上辻久敏

はじめに

近年気温が上昇し、夏場には40℃を超える気温が観測されるようになってきており、様々な農作物への影響が危惧されています。

岐阜県でのキノコの主要生産品目であるシイタケは、外気温の影響を受けやすいビニールハウスにおいて栽培されており、その多くは冬場の対策である暖房施設はありますが、夏場の空調対策は行っていないのが現状です。

夏場の気温上昇が原因と考えられる栽培トラブル(シイタケ発生量の低下)の発生から、各生産施設では、夏場に何らかの対策が必要なのは理解されていますが、現状では夏場の栽培管理方法が確立されておらず、対策は各生産者の経験任せとなっています。生産者からは、夏場に発生する栽培トラブルの原因の究明と有効な対策が求められています。

夏場の温度上昇がシイタケの発生に与える影響

夏場の栽培トラブルの原因が温度上昇

と仮定し、培養後期の発生処理前の菌床を用いて、人工的に温度を変化させ発生への影響を確認しました。発生処理前に36、33、30、27、24および21℃で処理した結果30℃以上で発生に影響がありました。次に、36、33、30および必ず発生する21℃で、処理時間(5、1日)の影響を確認しました(図1)。その結果、33℃以上で5日処理した場合と36℃で1日処理した場合で、発生開始が遅くなる傾向がありました(図1)。

その後の菌床から発生するシイタケを調べたところ、33℃で5日処理した場合と36℃で1日処理した場合は発生時期が遅くなりましたがシイタケは発生しました。しかし、36℃で5日間処理した場合は、シイタケは発生しませんでした。各温度の条件下で温度だけでなく処理時間がシイタケの発生を決める重要な因子であることが分かりました。

ビニールハウスにおける温度の偏りはどうか

赤外線サーモグラフィカメラを用いてシイタケ栽培ビニールハウス内全体の温度分

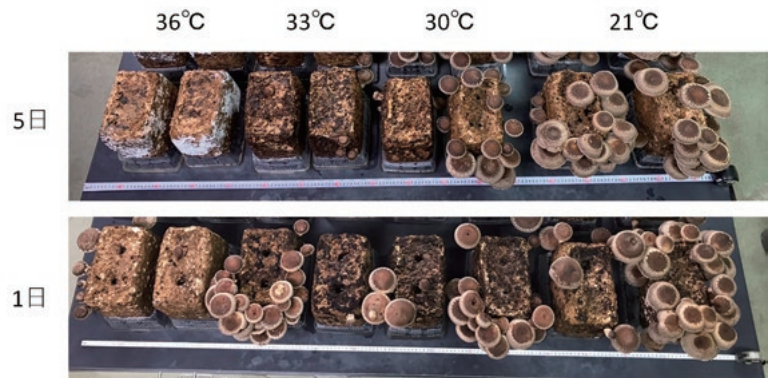


図1 処理温度と日数の影響

布を調査しています。ビニールハウスの天井や側壁面は、特に暑く、菌床表面にも部分的に赤色で示された30から36℃の場所が存在します(図2)。特に5段の栽培棚の上段に配置されているビニールハウス側壁側の菌床表面の温度が高くなっており注意が必要であることが分かりました。

最後に

温度とその継続時間のシイタケ発生への影響を明らかにして、栽培施設の熱だまりの状況を理解しつつ、効果的な対策を考え、キノコ生産者の収益向上に貢献していきたいと考えております。



図2 施設内温度分布の様子

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-133-2585

森林研究所まで



労働災害ゼロを目指して



■恵那農林事務所 徳川 隆之

はつらり

恵那農林事務所管内の中津川市、恵那市内では、休業4日以上の労働災害の発生件数が令和元年、2年度ではそれぞれ2件だったのに対し、令和3年11月末時点で5件と急増しました。そこで労働災害の発生を抑えるために昨年度から今年度にかけて実施した新たな取り組みについて3点紹介します。

森林組合を対象にした会議

令和3年12月17日に農林事務所にて、管内の5つの森林組合の安全管理担当者を対象に労働安全指導を行いました。

その中で、現状の分析として次の2点を挙げ、今後数カ月の業務として各組合が多く計画していた環境保全林整備事業などの切捨間伐の作業について特に注意いただくよう求めました。

①令和元年から3年度までに管内で発生した事故9件の内、7件はチェーンソー作業中の事故であること。

②さらに内5件は間伐中で、全て切捨間伐中の事故であること。

また具体的な対策として、各々が雇用している全ての森林技術者に対してチェーンソーを用いた伐倒作業が、ガイドラインに示され

た安全なものであるかどうかを確認し、技能が備わっていない場合には、対応方針を示すよう指示しました。この時期は繁忙期でしたが、大事なことであるという共通の認識から、積極的に実施していただきました。

安全パトロール

今年度初の取り組みとして、林業・木材製造業労働災害防止協会岐阜県支部恵那分会、恵那労働基準監督署及び恵那農林事務所の3者合同での安全パトロールを、8月31日に恵那市内の、また9月26日に中津川市内の各3事業者の現場で実施しました。



出発前の打合せ

9月の中津川市で実施した内容を記します。
パトロールへ出発する前の打合

せでは、8月末時点で岐阜県の全産業での災害発生件数が1738件で前年同時期と比べて216件増と14・5%も増加しており、新型コロナウイルス感染症による休業の増加の影響が大きいものの、それ以外の原因によるものも181件増加していることなどが労働基準監督署から報告がありました。

パトロールでは、森林組合の伐採・搬出作業の現場を3箇所、また木材加工工場1箇所を巡回しました。林道沿いの搬出間伐を実施中の現場では、組合担当者から毎朝のKY活動の実施状況について説明を聞いた後、「移動時の転倒」についてチェックリストを用いて確認し、「かかり木処理」「熱中症」「重機旋回範囲」などと併せて注意を促しました。

作業に従事されている方々の安



現場での指導

全意識の向上を期待するものですが、我々農林事務所の職員も労基署、林災防の職員の方々との情報交換を行う良い機会となりました。

林業労働災害レスキュー訓練

こちらは、奥山で作業中に被災した技術者を安全かつ迅速に救出する知識と手順等を学ぶことを目的とした訓練で、県庁の森林経営課主催で10月18日に中津川市内で開催しました。(昨年の本誌11月号では9月に郡上地区で、先月号では10月に山県市で開催された模様が紹介されました。)

中津川市北消防署の熊澤署長と署員の方々のご指導の元、管内5森林組合の森林技術者23名が参加しました。

午前は山林内で被災者の救出・搬送の訓練、午後は市福岡総合事務所へ応急処置訓練、訓練の振り返りと林業労働災害の現状と対策等の座学が行われました。

現場での訓練では、救急への連絡から搬送の方法までを実際に体験してみることで、生じる困難さに数多く気付くことができました。

現場では、参加者の方から「消防へ電話で依頼する際に、県防災へりによる救助を依頼してよいものか迷う」といった質問があり、消防

署員の方から「躊躇せずに依頼していただいてよいし、奥山での事故では基本的にヘリの出動を考えると回答を得て、安心される場面もありました。

来年以降は農林事務所が開催する形式になりますが、今回参加いただくことのできなかった森林組合以外の林業事業者の皆さまにご参加いただけるよう企画したいと考えております。



被災者を1人で搬送する方法の指導

今後もし引き続き、関係する各機関の協力を得ながら、事業者に対し適切に指導を行うことで、現場での作業に従事されている皆さまが今日も一日無事に仕事を終え、家庭に帰ることができるよう、取り組んでいく所存です。

詳しい内容を知りたい方は

TEL0573-261111(内線305)

恵那農林事務所まで

スマート林業通信 33

LPWA通信の運用について

1月号で紹介したとおり、岐阜大学COデザイン研究センター及び中部電力パワーグリッド株式会社岐阜支社と産官学の連携協定を締結し、LPWA通信エリアの共有等の運用を開始しました。

LPWA通信機器には、人が持ち歩く「子機」、尾根等の見通しの良い場所に設置する「中継機」、電源のある場所でデータ通信圏内に設置する「親機」の3種類があります。

親機が受信したデータはクラウドを通して、インターネットに接続できる環境であればどの場所からでも見るができます。

写真をご覧ください。森林文化アカデミーの子機から発信したデータは、森林文化アカデミーの中継機から揖斐川町の貝月山に設置された岐阜大学の中継機を経由して岐阜大学の親機が受信しています。岐阜大学の親機からクラウドに飛ばし、そのデータを見ていることとなります。

なお、森林文化アカデミーの中継機は演習林の尾根に設置しました。中継機はソーラーバッテリーで稼働しており、2時間毎に電波強度がクラウドにアップロードされますので、中継機の稼働状況は事務所のパソコンで確認できます。

親機は電源が必要であり、県の親機は当校のテクニカルセンター内に設置しました。親機も中継機も見た目は同じで、研修時に親機や中継機がどのようなものか現物を確認しやすいように室内の見やすい場所に置いてあります。もちろん中継機の設置方法を見たいという要望があれば、演習林の尾根まで案内します。

LPWA通信網が広がり、林業の安全や通信手段に活用されることを期待しています。

番号	親機番号	端末名
1	1760000580	子機580@森アカ
2	2001000192	中継機192@森アカ
3	2001000053	中継機053@貝月山
4	2001000052 (新)	35T中継機052 (新)

▲LPWA通信の様子

詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-135125305

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

七宗町上麻生地区森林共同施業団地 ニホンジカ食害防除対策 現地検討会を開催しました

各地でニホンジカの食害が深刻化し、適正な頭数に管理する個体数調整が求められています。また、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するための防護対策についても、低コストで効果が期待できる技術開発が求められています。

こうした状況の中、国、県、市町村、事業者等が情報共有を図り、意見交換を行うことにより、岐阜県内のより効果的な対策を行うことを目的として、ニホンジカ食害防除対策の現地検討会を12月8日に開催しました。

この検討会は、中部森林管理局森林技術・支援センターと岐阜森林管理署の共催で、平成28年度から毎年開催しているもので、本年度は県や市町の担当者、関係事業者など42名の参加による開催となりました。
午前は七宗町の神測コミュニティセンターで屋内検討会を行い、岐阜県森林研究所の片桐奈々主任研究員

を講師に迎え、ニホンジカ対策の現状と課題について講義を行いました。

ニホンジカの生態や林業被害の状況、主な食害防除対策である忌避剤散布、ツリーシエルト、シカ柵のメリットとデメリットなどについて知識を深めることができ、食害防除対策に取り組むうえで、たいへん参考となりました。

また、中部森林管理局職員から局管内における獣害対策の取組等についての説明も行いました。



屋内検討会の様子



午後は七宗国有林の七宗町上麻生地区森林共同施業団地内に設置している「獣害対策展示エリア」で現地検討会を実施しました。
箱罾や囲い罾、防護柵、幼齢木保護資材を見学し参加者間で情報交換を行うとともに、くくり罾等の展示や狩猟免許を持った岐阜森林管理署職員による実演を行いました。

ニホンジカ食害防除対策には決定打といえるものがないのが現状ですが、今後も民国の関係者が知恵を出し合うことで、地域一体となった対策を推進していきたいと考えています。

(森林技術・支援センター)

／岐阜森林管理署



くくり罾等の展示・実演



囲い罾の見学

岐阜県みどりの少年団活動発表大会を開催しました。

令和5年1月21日（土）に森林文化アカデミー 森の情報センターにおいて、県及び公益社団法人岐阜県緑化推進委員会の主催による「令和4年度岐阜県みどりの少年団活動発表大会」を開催し、5団のみどりの少年団が1年間の活動成果を元気よく発表しました。

審査の結果、「中野方小学校みどりの少年団」が最優秀賞に選ばれました。発表では、坂折棚田の米作りと水源となる森林の調査、森の健康診断と間伐体験、木の駅プロジェクトなどの活動を体系づけて紹介し、先人から受け継がれてきた地域の農林業の将来に向けて、自分たちができることを表現できたことが高く評価されました。

みどりの少年団の皆さんには、少年団活動を通じて新たな発見や驚きを共有し、森林や緑を愛し、守り、育てる心を大切に、団員みんなの力を合わせて活動を楽しんでもらいたいと思います。

発表少年団及び審査結果

- 最優秀賞 中野方小学校みどりの少年団（恵那市）
- 優秀賞 城山小学校みどりの少年団（海津市）
- 奨励賞 付知南小学校みどりの少年団（中津川市）
- 北方小学校みどりの少年団（揖斐川町）
- 荘川小学校みどりの少年団（高山市）

このほか、海津市みどりの少年団、黒川中学校緑化少年団が参加されました。

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司】



中野方小学校みどりの少年団の発表



発表したみどりの少年団のみなさん（表彰式）

森林・林業関係イベントカレンダー（4月）

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込（問合せ）先／TEL
4月12日(水)～ 4月14日(金)	伐木等の業務(チェーンソー)に係る特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：12日 学科 8:50～17:10 13日 学・実 8:50～12:00 14日 実技 8:30～17:40 ● 申込：開催日の10日前まで ● 受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ● 定員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	12日(学科) 13日(学・実) ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東 2-5-6） 14日(実技) 櫛木の国土場（山県市椎倉 203-1） 林業業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
4月18日(火)～ 4月21日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格 自動車普通運転 免許所持者	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間 1日目 学科 8:45～17:05 学科試験 17:10～18:10 2～4日目 実技・試験 8:00～17:30 ● 申込：開催日の20日前まで ● 受講料：32,450円(本代含む)(振込み) ● 定員：20名(定員になり次第締め切ります。) 	(学科) 伊自良中央公民館（山県市大門 850-67） (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場（山県市洞田 127-5） 林業業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
4月27日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：学科 8:55～15:20 実技 15:30～16:30 ● 申込：開催日の10日前まで ● 受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ● 定員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東 2-5-6） 林業業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

今から2年半前のことです。私は職場の階段を下りて行く途中で気を失って、10段ほど転落しました。自分は全く記憶にありませんが、すぐに職場の皆が血だらけの私を見つけて、応急処置や救急車の手配をしてくれました。

入院や手術を経て、今ではおかげ様で後遺症もなく趣味のテニスも人並み以上に楽しめています。ただ、誰もいないところで転落していたら、車の運転中に気を失っていたら・・・と考えると今更ながらぞっとします。以前から時々目眩を感じる事があったのですが、忙しさや新型コロナを理由に病院へ行くのを先延ばしにしていました。

皆様の中にも少しでも身体の異常を感じている人がいたらすぐに病院に行きましょう。大ごとになる前に！

「森林のたより」編集委員 水谷 和人

4月1日発行

イベント情報

連載

- 山の歳時記 (212)
- 山のおじゃまむし (381)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵 (123)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築 (121)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報 **その他**

**4月号
予定**

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1814回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	17,200	—	→	
		4 m	16~18cm	15,700	—	→	
			20~22cm	16,700	—	→	
			24~28cm	16,500	—	→	
			30cm以上	15,600	22,200	→	
	6 m	16~18cm	—	—	→		
	2月7日	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→
			20cm以上	20,700	53,300	→	
		4 m	16~22cm	22,600	—	→	
			24~28cm	19,900	—	→	
30cm以上			19,700	47,000	→		
6 m		16~18cm	—	—	→		
第1401回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→	
		4 m	24~28cm	16,000	—	→	
			30cm以上	15,000	—	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→	
		4 m	20~22cm	22,000	—	→	
			24~28cm	19,900	—	→	
		30cm以上	19,700	64,000	→		
			6 m	16~20cm	30,000	—	→
		2月8日	ひめこ	4 m	24~28cm	15,000	—
	30cm以上			15,000	18,600	→	
	5 m		30cm以上	—	—	→	
	くり		4 m	24cm以上	15,000	—	→
第1733回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→	
		4 m	24~28cm	16,500	—	→	
			30cm以上元	15,000	26,000	↗	
	ひのき	3 m	16~22cm	22,500	37,000	→	
			24~28cm	19,800	—	→	
			30cm以上元	25,000	63,000	→	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
			30cm以上元	25,000	62,000	→	
			6 m	18~22cm	31,500	—	→
	2月9日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→
			30cm以上元	11,000	—	→	

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギは全体的に安定した需要に支えられ強保合、特に4m元木、尺上良材は応札多数、40cm以上も入札多数。スギラミナ向け3m・4m材は保合であるが引き合いは強い。ヒノキ元木、尺上良材3m・4mは活発な応札にて引き合いは強い。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。高値はヒノキ 5.0m×36cm@58,000円、ヒノキ2.0m×40cm@50,200円(岐阜)

スギ、ヒノキは全体的に保合。ヒメコは買気旺盛で全体的に引き合いが強い。広葉樹は出材量が少ないが並材良材とも応札旺盛で、前回と同じくサクラ、マクルミ、ナラ良材に人気が集まり引き合いが強い。高値はヒノキ2m×40cm@55,000円、ヒノキ5m×62cm@250,000円、エンジュ2.2m×14cm@25,000円、ミズ×2.1m×30cm@55,000円、マクルミ2.1m×30cm@38,000円、サクラ3.8m×32cm@44,000円、トチ2.1m×40cm@38,000円(飛騨)

ヒノキ元木良材3m・4m尺上、40cm上役物取りは引き合いが強く、強保合。3m柱向け(14cm~24cm)は手堅い売れ行きで保合。4m中目は売りづらさは薄れつつも、保合で展開。スギ4m中目尺上元木良材は降雪による品薄感も一服し、保合で推移。3m・4m構造材向けは軟化気配であるが、横ばいを堅持、保合での展開。

市中の製品在庫過多は徐々に緩和され、改善に向かっていくが年度末を目前に引き続き注視が必要。高値はモミ元木4.0m×68cm@46,500円(東濃)

製品卸売標準価格 (1月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	90,000	(2,977)	→
	間柱	3000	105	30	1等	90,000	(851)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	100,000	(4,410)	→
	柱	3000	120	120	特等	90,000	(3,888)	→
		6000	120	120	特等	165,000	(14,256)	→
W集 ウッ ド材	柱	3000	105	105	国産5層	118,000	(3,900)	↘
		3000	120	120	国産5層	119,000	(5,100)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (1月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	504	↘
	コースト(目荒)	493	↘
米母	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

とぉ ぼしら まぼしら 通し柱・間柱

通し柱・木造2階建て建築物で、土台からの軒桁まで、1階、2階を1本で使用
する柱。一般的には6mだが7mもある。隅柱や大黒柱として使用されることが
が多く、胴差などが2方向、4方向から掛かる場合がある。

間柱・柱と柱の間に垂直に施工する材、厚みは27、30ミリなど。幅は柱と同
寸で105、120ミリなど。石膏ボードなどを壁に張る際の下地になる。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典